

21 世紀の協同組合運動の創造 ～地域再生をめざす協同組合運動～ (モンドラゴンの視察報告)

日本の協同組合は、1 人ひとりを豊かにしてきたのでしょうか。農業の現場で進む、高齢化・担い手不足。労働の現場を覆う偽装と効率最優先の歪み。そして地域と生活に広がる安心と信頼、絆の崩壊。こうした社会を解決するため、協同組合が内から外へと「協同」を広げながら、若者をはじめとしてあらゆる人たちが参加し、地域を活性化・再生する協同組合の展望について皆で話し合います。

☆ 11 月 23 日 (日) 9:30～15:00 新潟青陵大学にて☆

●コーディネーター

・岡安喜三郎 (協同総合研究所副理事長、協同組合学会副理事長、元大学生協専務)

●コメンテーター

・橋本吉広 (地域と協同の研究センター 研究プロジェクトマネージャー)

・島田圭一郎 (前日本農業新聞社長、日本労働者協同組合連合会顧問)



●パネラー

・石塚美津夫 (元 JA ささかみ、オリザささかみ自然塾)

★個性豊かな報告者に注目！★

新潟県阿賀野市にて水稻、エゴマ、露地野菜を栽培。ヤギ 2 頭とニワトリ 50 羽を飼育。有機農業歴 12 年。「オリザささかみ自然塾」を設立し農家民宿を経営。生協の新入社員研修も担っている。

・岡 幸子 (JA 佐渡経営管理委員会、お転婆倶楽部)

JA 出身の女性 7 名で「お転婆倶楽部」を結成。手作り味噌と燻製卵を加工販売している。JA 生活部での経験を生かして「ほほえみ会」を結成、高齢者の食事や買い物のお手伝い事業も行う。

・大内文雄 (ひらたかノラの会 代表)

山形県白鷹町にて、農家・新規就農者、男女、既婚・未婚問わずに 20 代～60 代 11 名で会を結成、民主的運営を目指す。百姓が昔から育てていたキビやエゴマ等の栽培、野菜の加工販売をする。

・山本一哲 (野浦トキの郷米生産組合、総合生協顧問)

新潟県佐渡市出身。総合生協顧問。地元の農家と「野浦トキの郷米」を生産し、流通を目指す。若者に佐渡の歴史を熱く語る。

・岡村信秀 (広島県生協協同組合連合会)

大和証券、広島県婦人生生活協同組合 (現生活協同組合ひろしま) を経て現職。最近の著書に『生協と地域コミュニティー協同のネットワーク』(2008 年、日本経済評論社) があり、新しい協同組織との連携を展望している。

・岡元かつ子 (ワーカーズコープ・センター事業団 副理事長、だんらんグループ)

鹿児島県出身。埼玉県北生協の物流の委託事業の縮小をきっかけに、「だんらん」を結成。主婦が中心となり「とうふ工房」を立ち上げた。現在では配食サービスや地域福祉事業所も展開。

●モンドラゴン報告

・加納三千子 (福山市立短期大学 教授)

関心は食物学、コミュニティビジネス、共食レストラン。9 月に視察をしたばかりのモンドラゴン最新情報を報告！

【お問い合わせ先】 全国協同集会実行委員会 事務局 (新潟)

〒950-2026 新潟市西区小針南台 3-16 ささえあい生協内 TEL 025-378-6806 FAX 025-230-6680

E-Mail : kyodo2008@gmail.com <http://kyodo-net.roukyou.gr.jp/2008/index.htm>